

教育広報

# いるま

第53号  
平成23年3月

題字：教育長 村野 志朗  
編集：教育広報いるま編集委員会  
発行：入間市教育委員会学校教育課  
電話 04-2964-1111(内 4145)

## 新しい教育課程で授業がはじまります



潤いのある学校生活を  
実現するために

平成二十三年四月より、小学校では新しい学習指導要領に基づく授業が開始されます。(中学校は二十四年度から)これにともなう授業時数の増加に対応するために市内公立小・中学校では、次の日に授業を実施します。

- 各学校の開校記念日
- 県民の日 (十一月十四日)
- 十二月二十五日

～二十七日

授業日を増やすことにより、時間的な余裕を生み出し、子ども達にとって潤いのある学校生活を実現するとともに教育活動の充実を目指すこととしました。ご理解とご協力をいただきますよう、お願いいたします。

### 共に学び合う子の育成

—美しい日本語による話し合いを通して—

入間市立西武小学校 校長 小島 明

#### 研究主題について

本校では、研究主題「共に学び合う子の育成」を位置付け、言葉を通して相手の考えを尊重して話し合い、日本語の美しさに気付き、豊かな言葉を獲得していくことを目指しました。そうした学びから、思考力・判断力・表現力を養い、コミュニケーション能力のある子どもを育てていきたいと考えました。

そこで、相手の考えを尊重した「話し合い」のあり方と「美しい日本語」を習得させる学習活動の工夫に重点をおき、学習を展開してきました。

「美しい日本語」を習得させるために系統表を作り、教材開発を行いました。日本語のもつ独特のリズムや語感を体感し、言葉の中にある文化的な背景や歴史的要素を感じる子ども達に育って欲しいと願ったからです。

また、付けた「話し合い」の力も系統表にまとめ、相手との相違点や共通点を考えながら話を聞き、場にふさわしい言葉で自分の考えを話せる子ども達に育って欲しいと考えました。

各学年の授業  
第一学年では「昔話」を、第二学年で



は「詩」、第三学年では「童謡」、第四学年では「俳句」、第五学年では「百人一首」、第六学年では「漢詩」を題材として授業を行いました。

どの学年でも、リズムや語感を楽しみながら、音読をしたり暗唱をしたりしたこと、それぞれの題材に親しみを感じ、日本語のもつ美しさを意識したり、言葉のよさに気付いたりし、語彙を広げることができました。また、話し合いでは、友だちの考えと比較したり繋げたりしながら、自分の考えを深めたり、読み取りの視点を学んだりできるようにしました。

今後も教材開発をし、より多くの作品にふれる機会を作り、身につけた言葉を使う応用力を高めていくことが課題となります。

### ことば力の育成をめざして

—「コミュニケーション能力のさらなる向上をめざして—

入間市立野田中学校 校長 矢野 和彦

#### 形態の工夫

本校では平成二十一・二十二年度の二年間、入間市教育委員会・入間市教育研究会の委嘱を受けて、「ことば力の育成」を研究主題として研究を進めてきました。

「ことば力」を、本校では「正しく美しい日本語を使える力」ととらえました。「正しい日本語」とは「言語に関する技能」であり、「美しい日本語」とは「言語に関する感性」ととらえました。研究仮説を「ことば力が向上すれば、論理的思考力・コミュニケーション能力・感性や情緒力が向上する。すると、人間関係に自信が持てるようになり、自己肯定感が増す。その結果様々なことに意欲的に取り組むようになり人間力が高まる。」としました。

具体的には次の四つを柱として研究を進めました。

- ①ソーシャルスキルトレーニング
- ②教科指導の中での発表の仕方の定着や学習



③「語彙力アップタイム」での語彙力の育成

④発言力や聞く力を高めるための取組  
研究発表会では一年生はスピーチ学級発表会、二年生は学年プレゼンテーション

発表会、三年生は学年弁論大会を行いました。

講演会にはNHK日本語センター長の木原先生を講師に迎え、「授業における話し合いのさせ方」について、実演を交えて研修を行いました。



本校の生徒に行った調査結果では、人前で話すことへの抵抗感が減少し、相手に伝わるように話す努力をしている生徒が増加していることがわかりました。

これまで行ってきた研究を今後も実践し、「ことば力育成」が「人間力育成」へとつながるよう取り組んでいきたいと思えます。

# 確かな学びをはぐくむ学習指導をめざして

入間市立豊岡小学校 校長 声沢 文字

一人ひとりの子どもを大切に  
「おはようございます」毎朝、正門から元気な声が聞こえてきます。豊岡小学校の一日のスタートです。校長以下職員、児童代表委員、生活委員会によるあいさつ運動が展開されています。

本校の子ども達は明るく元気な子が多いのですが、朝の光景だけを見ても、通学班では登校できずに一人で登校する子、授業が始まってから登校する子、「朝ご飯を食べたのかな？」と心配されるような子等一人ひとりを見つめると個々に課題をもっている子も少なくありません。学習指導はもちろんですが、基本的な生活習慣の定着も積極的に指導しています。

学校全体であいさつ運動を展開することで、元気なあいさつが聞かれるようになってきました。また、子ども達の生活を見直すにあたり、学校だけで取り組むのではなく、家庭・地域との連携を大切に考えています。昨年度より、基本的な生活習慣確立のため「すくすく銀行」こつこつ貯金」という取組を行ってあります。家族会議で起床時刻・就寝時刻・お手伝い等を決め、目標に向かって努力するというものです。親子での

取組が少しずつ根ざし始めているところではあります。

## 国語科の指導を通して

全職員で国語科の研究に取り組んでいます。本年度は学年を主体に授業研究に取り組みました。学習のルールづくりを全職員で確認し、一時間の授業の進め方について話し合いました。物語や説明文の授業をどう組み立てていくべきか、夏休みや放課後の時間を使って議論しました。全職員で研修して国語の授業を楽しく教えられるようになりました。



となくさらなる向上をめざして努力を続けています。

地区学力調査の結果等から、本校児童の学力が確実に上昇していることも裏づけられました。全職員これに満足するこ

# 学ぶ意欲を伸ばすために

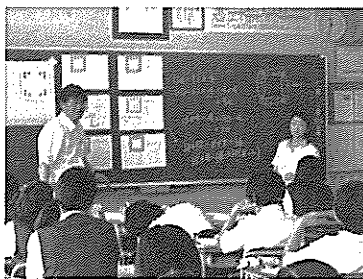
入間市立向原中学校 校長 大室 重喜

研究の概要 本校では今年度より、市の研究委嘱を受け、「自ら学ぶ心豊かな生徒の育成をめざして」学ぶ意欲と学ぶ力を伸ばす学習指導法の研究」というテーマで、研究を進めています。今年度は、各教科部会や研修会の定期的な実施、授業研究なども、指導者を招聘して全職員で実施しましたが、この稿では、特に「学ぶ意欲」の現状を把握するために実施したアンケート結果と、その分析を掲載します。

アンケート内容 内容の主なもの  
は以下の通りです。①学校が好きか。②勉強することは好きか。③勉強することは大切だと思うか。④学校の授業がわかるか。⑤授業でわからないことがあったら、どうすることが多いか。⑥定期テスト前の復習はできているか。⑦授業開始前のチャイム着席はできているか。⑧家庭学習について、普段どのくらい五教科の学習を行っているか。⑨家庭ではどのような学習をするか。⑩家庭ではどのようなとき学習しやすいか、等です。

結果と分析 一つ目に、「学校が好きな生徒」は82%と高く、「勉強が大切だと思っている生徒」は95%と高かったです。一方、「勉強が好き

ではない生徒」が81%いることから、「できた↓うれしい↓もつとやってみよう」という学習の喜びを味わわせる成就のサイクルにふさわしい授業かどうか検討する必要があります。二つ目として、授業でわからないことがあったとき、「友人に聞く生徒」が70%、「そのままにする生徒」が22%というデータでした。このことを踏まえると、全体の七〇八割の生徒は、学習に対して意識して取り組んでいると捉えられます。しかし、残りの二〇三割の生徒は意識の面でも低く、その生徒たちをいかに高めるかが課題となります。自分一人の力では高められない生徒については、ピアサポート（対等な支援）のよう  
に、他の生徒が支えていくことも効果があると考えられます。今後、さらに検証を積み重ねていきたいです。



## 学ぶ喜びわかる楽しさを味わわせる

### 指導と評価について

入間市立東町小学校 校長 齊藤 芳久

本校では、学習指導要領改訂のねらい、県や本校の指導の重点・努力点や取組、児童の実態、教師や保護者の願いを踏まえて、次の二点について研究することが課題であると考えました。

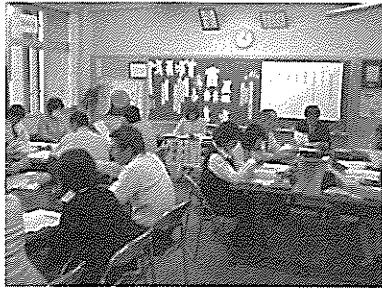
〔課題1〕児童が確かな学力をよりよく身に付けることができるような指導方法

〔課題2〕児童一人ひとりの個に応じることができるような評価方法を  
このような研究課題を解決するために「学ぶ喜びわかる楽しさを味わわせる指導と評価」という主題を設定し、これから全面实施を迎える学習指導要領における教科領域の指導と評価の在り方についての研究を進めています。

本年度は、一年次として研究の仮説を設定し、各学年で取り組む教科・領域を決め、授業を通して具体的に実践してきました。

第一、二学年：道徳  
第三、四学年：学級活動  
第五学年：算数 第六学年：体育

今年度は、主に、新学習指導要領の指導内容の教材研究に焦点を当てて取り組んだところ、指導方法の工夫の重要性和改善点が明確になりました。また、評価について、思考



力・判断力・表現力の観点・視点を明確にした評価方法の確立が大切だということが明らかになりました。  
今年度は、一、四、六学年で外部指導者を招聘し、指導をもとに実践しました。その際、研究協議会の進め方も工夫して臨みました。特に、ワークショップ(体験型講座)形式の協議会を取り入れ、参観者の話し合いを中心にして活発に協議会を進めたことにより、各学級担任一人ひとりが授業者と同じような課題意識をもつことができ、自分の授業に生かすことができました。  
二年次は、新学習指導要領の全面实施の年であることから、より具体的に主題に迫るように研究を深めていきます。そして、学ぶ喜びわかる楽しさを味わわせる指導と評価の確立をめざしていきます。

## 確かな学力の向上を目指して

### 算数科を中心として

入間市立高倉小学校 校長 山下 忠夫

本校では、平成二十二・二十三年度、入間市教育委員会、入間市教育研究会の委嘱を受け、算数科の研究に取り組んでいます。

研究のねらいは「算数の授業を通して基礎的な力を確実に身につけさせ、算数好きな児童を育成していくための授業のあり方を追求していく。」としました。めざす児童像として「できた、わかった、おもしろかったと感じられる児童」を掲げ、授業実践を中心に推進しています。

#### 一 研究仮説

学習規律を徹底し、指導計画の工夫と児童が主体的に取り組むための授業づくりをすれば、「できた、わかった、おもしろかった」と感じさせる算数の学習が展開できるのではないかと考えました。

#### 二 仮説検証のための手立て

①学習規律の徹底  
学習の土台作りとして、あいさつ、返事、姿勢、発表の仕方など学習の基礎となる規律を見直し徹底を図っています。また、ノート指導は、一時間を見開きで使用し振り返られるようにしました。さらに、線の引き方も色分けするなど、全校で統一し分かりやすい使い方を工夫しています。



②指導計画の工夫  
一貫性、ストーリー性のある指導計画を工夫し、各学年で同領域の研究に取り組んでいます。領域を絞ることで、系統性を意識した授業や掲示物に成果が見られました。  
③児童が主体的に取り組む授業づくり  
問題・課題提示の工夫では、児童の身近な事象を元に「解きたくなるような」問題を提示と二段階の練り上げからまとめへの工夫にも取り組んでいます。  
一年目の今年度は、授業実践を通して、学力を向上させるための基礎基本を研究してきました。今後も、子ども達のために全教職員で取り組んでいきます。

# 児童をやる気にさせる体育授業

―体づくり運動―

入間市立金子小学校 校長 田辺 曉己

近年、運動をする子どもとそうでない子どもの二極化が進んでいることや子ども体力低下の傾向が深刻な問題になっています。このことは、健康や体力の面だけではなく、生涯スポーツとして運動に親しむ観点からも大きな問題を抱えているといえます。この背景には、適切な運動遊びを経験していないこと、さらに仲間といっしょに遊ぶ機会が少なくなったことが原因として考えられます。

そこで、今回の研究では「運動の楽しさや喜びを味わわせ、児童をやる気にさせる体づくり運動の授業」をテーマとして設定しました。体づくり運動を通して、児童が夢中になって運動に取り組み中で、仲間とのかかわりを大切にし力いっぱい運動させることを目的とし、研究を進めました。

## 具体的な手立て

教材教具・学習過程の工夫をした「体力アップリレー」と「チャレンジ



運動」を考えました。本校の課題である「瞬発力」「握力」、さらに高学年で重点を置いて指導すべき「柔軟性」「巧緻性(敏捷性)」を高めるための運動をリ

レー形式で行いました。また、ミツシオンを与えることで児童をやる気にさせ、「みんなで」「いっしょに」活動させました。

手立ての二つめは、評価の工夫です。診断的・総括的評価、形成的授業評価、授業場面の観察による評価等、様々な評価活動を取り入れることで、授業の質を高めるように努めました。

## 成果と課題

児童は無意識のうちに体力を高めることができました。(児童の実態把握、競争を通して十分な運動時間と運動量の確保、必要な運動経験)また、自然に仲間と関わるようになり、ミツシオンをクリアするためにチーム内で思考・判断しながら、結束力を高めることができました。(夢中になるような教材の工夫)

今後は、集団としての活動だけでなく、個々の児童のめあてや技能の伸び、新しい発見等、個人の成果に関わる部分も充実できるように、改善を図ってまいります。



# 自らの「生きる力」を育成するための授業の実践

―友だちと仲良く自ら健康で安全に安心して生活を送ることのできる児童の育成―

入間市立藤沢東小学校 校長 岡村 光章

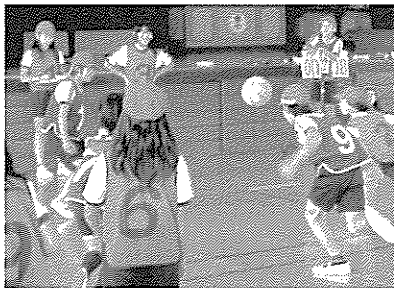
子ども達にとって、友だちと仲良く、健康で安全に安心して生活できることが大切です。まさに、その力を身に付けさせることが「生きる力」の育成につながっていくと考えました。

子ども達が友だちと仲良く、健康で安全に安心して生活するために、生活環境もさることながら、子ども達自身の意識の向上を目指すとともに身体能力の向上等が大切です。

## 「知・徳体」のバランス

そこで、初年度として、「知・徳・体」の三つの教育研究部を組織して、授業実践を中心に組みました。

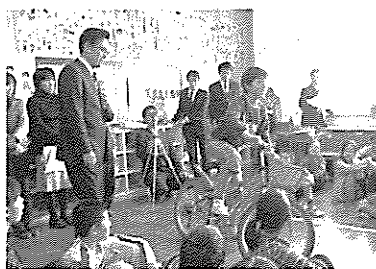
「知」としては、健康や安全についての知識を身に付けることも、自己表現力やコミュニケーション能力を身に付けることで、自己及び他



人を大切にする態度を育成することです。

「徳」としては、落ち着いた生活や自他の生命を大切にすること意識の向上を子ども達自身に気付かせ、自ら行動できるようにすることです。

「体」としては、自分の体は自分で守ることを主体とした健康教育を通して、自分の体を健康的に維持していくことの大切さや身体能力の向上の大切さに気付かせ、自ら実践できるようにすることです。



今後は、各研究部の研究を深めていくとともに、日常での指導や環境の整備など学校全体の取組として考えていきます。

### 校内音楽会

#### 「ドリームコンサート」

藤沢南小学校

保護者や地域の方を招待しての校内音楽会は、保護者の約九割が参観した満員のコンサートでした。児童会の代表が進行し、全員合唱「もみじ」で明るく、元気に始まりました。

担任の先生の指揮による各学年二曲の演奏は、音楽の時間を始め、朝の会や帰りの会の時間を活用して練習してきたものです。どの学年も聴く側にとっても、気持ち温かくなるものばかりでした。

学年演奏が終わると保護者有志と職員による「ハッピーバースデー」の合唱がありました。夕方集まって行った計三回の合同練習の成果が出たのか、子どもたちや保護者、地域の方が笑顔で舞台を見つめていたのが、印象的でした。

児童の感想には、「たくさんの人の前で緊張したけれど、みんなと一緒に大きな声を出して歌えたのが気持ちよかったです。」とありました。



## 地域に根ざした 特色のある教育活動

### ふるさと仏子を愛します

仏子小学校



今年度、仏子小は三十周年を迎えました。記念事業のテーマは「ふるさと仏子を愛する児童の育成」でした。式典では全児童が仏子小の三十年の歩みを振り返り、未来への「ぶしっ子宣言」を力強く行いました。その後、六年生が仏子の自然や文化・歴史を紹介した「仏子音頭」を発表しました。六年生が作詞し、作曲や振付けは地域の方々のご協力を得ました。



後半の記念館(発表会)では保護者、地域の方々も招待し、一年生の飾り付け、二年生の仏子の土で作った「どろだんご」、三年生の狭山茶研究と茶の接待、四年生の仏子小についての研究、五年生の仏子地区についての研究、六年生の「仏子音頭」教室を行いました。また、PTA・後援会は、二十年間のぶしっ子まつりの歩み等の掲示をしました。地域と一体となったふるさと仏子を再確認した記念事業になりました。

### 夢をもって生き生きと活動する学校を目指して

武蔵中学校



本校の自慢の一つに「挨拶」があります。毎週木曜日の朝、生徒会が中心となって挨拶運動を行っています。「挨拶運動をしていくうちにどんどん挨拶を返してくれる人が増え、今では素通りをする人はいなくなりまし。挨拶を通して学校が明るくなりまし。と生徒会本部役員も言っているように、挨拶を契機として生徒達は生き生きと活動しています。

また、今年度はサツカープロフェツションアルレフリーの東城穰さんをお招きし「プロから学ぶ」と題して講演をしていただきました。映像や時にはクイズを交え「リーグや国際試合での様々な出来事などわかりやすく楽しく話をしていたいただきました。「夢があるから強くなれる」と言う言葉が生徒には強く印象づけられました。生徒達が、夢を持って生き生きと活動する大きな力となりました。

# 子ども未来室事業 只今進行中!

## 子ども未来室事業とは…

入間市に育つ子ども達の確かな育ちと学びを実現し、一人ひとりの自立を総合的に支援していく事業です。今回は、主な取組状況をお知らせします。

## 子どもの支援に関する事業

### 幼稚園・保育園(所)から小学校へ円滑に移行できるようにするための取組

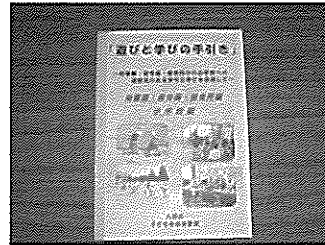
#### 幼保と小の交流の実施



さつまいもを一緒に掘る  
年長児と1年生

西武小と西武中央保育所、藤沢東小と藤沢第二保育所、高倉小と高倉保育所、宮寺小と宮寺保育所の4校4施設を中心に、年長児、小1児童に互いに意義のある、息の長い交流活動が展開されました。

#### 「遊びと学びの手引き」の活用



「遊びと学びの手引き」  
H22.11発行

入学前4か月と入学後の2か月を通して、環境の変化にとまどうことなく生活していけるようにと作成しました。市内の全ての幼稚園・保育園・保育所・小学校に配布し、活用を図っています。

### 日常生活を送る上での困難さを改善したり、軽減したりするための取組

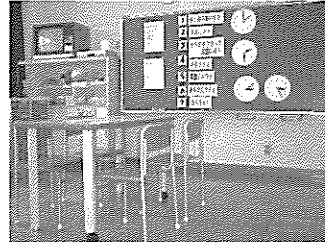
#### 巡回支援・巡回相談の実施



小学校での巡回支援の様子

幼稚園・保育園(所)に臨床心理士が巡回し、一人ひとりの発達に応じた保育・教育ができるように支援したり、保護者の方の相談にも対応したりしています。市内全ての幼保小中が対象です。施設全体の約8割で活用されました。

#### 通級指導教室の開設



小学校の通級指導教室

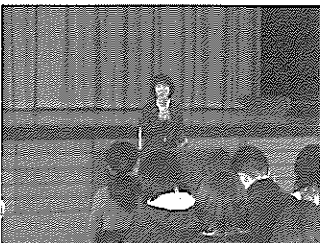
幼児の通級指導教室  
入間市教育研究所  
小中学生の通級指導教室  
豊岡小学校  
金子小学校  
藤沢南小学校  
仏子小学校  
東町中学校

全体で43人の子どもが通級しています。

## 子育て中の親の支援に関する事業

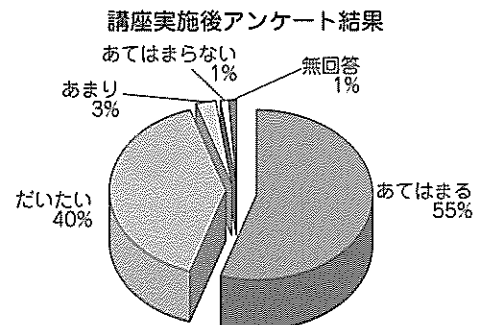
### 子育ての中心的な役割を担う親が親として育つための取組

#### 「茶の花茶ーミング」親の学習講座の実施



就学時健康診断での講座の様子

幼稚園・保育園(所)の本講座は、昔話を題材にしながら、子育ての方法や親のあるべき姿について考えました。市内全ての幼保小中を対象として、全体では約8割を超える施設での活用がありました。



「親のあり方をふり返るうえで参考になった」

その他の事業については、入間市公式ホームページ及び広報いるまをご覧ください。

# グッド ドレッシング

なぎなたで日本一!

全国大会に出場して

一年生の部 優勝

西武中学校 一年

清水 瑞希さん

私は、平成二十二年八月八日(日)に日本武道館で行われた全国なぎなた(長刀)錬成大会に出場し、一年生の部で優勝することができました。

大会には、小学校一年生から参加し、毎回優勝を目指していましたが、思うような結果が出せませんでした。

そこで今回は、先生のご指導により、大会一週間前に毎日午前二時間の集中練習を続けることにしました。

試合当日は、会場の緊張感に押しつぶされそうになりましたが、冷静さを保ちながら順調に勝ち抜くことができました。

そして決勝戦は、緊張感でいっぱいでしたが、判定勝ちで優勝することができました。  
その瞬間、とても嬉しくて涙があふ



れてきました。それは今まで私を支えてくれた人達への感謝の気持ちでもありました。  
私は、その時の気持ちを忘れずに一生懸命に練習し、来年も優勝することができるよう努力を続けます。  
\*右は、清水さん(写真中央)自身の文章です。克己心と不断の努力・心身の鍛練の継続で、百戦錬磨の実力が発揮されたことと推察されます。今後、さらなる精進を期待します。

## 陸上県大会新記録

男子四百メートルリレー

豊岡中学校 二年

守屋君 坂井(悠)君

山室君 坂井(創)君

平成二十二年十月十三、十四日、中学校新人兼県民総合体育大会県大会が熊谷スポーツ文化公園陸上競技場を会場に行われました。

大会両日とも天候に恵まれ、競技場にはこの時期には珍しく少し強い日差しが差し込んでいました。

大会の最終種目である四百メートルリレーにおいて、入間市の代表として出場した豊岡中学校の選手(写真左より守屋嘉久君、坂井悠太君、山室陸君、坂井創太君)の四名は、素晴らしい走りを見せ、四十五秒六六という大会新記録で優勝することができました。

十三日の予選では、バトンの受け渡しで相手チームとの差が多少つまる場所もありましたが、一位で通過することができました。

翌十四日、大会最終の種目であるリレー決勝では、選手たちは「気負うことなく、自分の力を出し切ろう。」「バトンをつなごう。」を互いに確認し、レースに臨みました。

その結果、各自安定した走りを見せ、前日よりスムーズにバトンも渡りました。予選の記録を更に伸ばし、二位と差をつけ、ゴールという見事な戦いぶりになりました。



## 編集後記

昨年は「暑」という世相の漢字でしめくられました。今年も寒い冬となりました。七月アナログ放送終了、十二月スカイツリー完成という年でもあります。理想は高く、平和な国際社会に向かって飛躍するウサギ年としたいものです。